

第4期嶺北地域アクションプランの 進捗状況確認資料

嶺北地域本部

令和4年7月8日（金）

嶺北地域アクションプランの進捗状況確認資料 (令和3年度の実施状況と令和4年度の展開)

R4.7.8
嶺北地域本部

1 地域アクションプランの令和3年度の実施状況と令和4年度の展開（総括）

(1) 総評

令和3年度は、全25項目のアクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めてきた。

嶺北地域においては4町村相互に関連する取り組みや、4町村全てに関わる取り組みが多いことから、常に連携を図りつつ、各町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の取り組みとベクトルを合わせながら推進してきた。

新型コロナウイルスの感染拡大による、全国的な経済活動の停滞や地域間交流の減少により、本県でも宿泊施設や飲食店などの観光関連産業や、営業活動の制限などの、大きな影響が出ているところである。

こうした状況の中で、当地域では、近年のアウトドアブームを受けて、夏以降、モンベルアウトドアビレッジ本山などのラフティングやカヌーなど自然体験型観光が好調に推移しており、また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた営業活動や、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた生産施設の整備など生産活動の拡大に向けた取り組みが進められたところである。

農業分野では、2町の農業公社等が中山間農業複合経営拠点として策定した事業戦略に基づく取り組みを進めており、また、ブランド米や地域で代々受け継がれてきた銀不老などの生産の拡大も図りながら取り組みを進めている。

その他、土佐あかうしの増頭が順調に進んでいるほか、大川黒牛の生産体制の強化に向けた取り組みが進められている。また、土佐はちきん地鶏については、生産からHACCPに対応した加工施設での丁寧な処理・加工、販売までの一貫体制のもと、県内をはじめ都市圏での販売促進やブランド化に取り組んでいる。

林業分野では、さらなる原木増産や安定供給を図るとともに、木質バイオマス発電施設の整備など、地域内での連携した取り組みや森林組合への支援に取り組んでいる。また、集落活動センター西峯におけるスギのコンテナ苗は、集落の基幹ビジネスとなるように生産技術の向上や栽培量の拡大に取り組んでいる。

観光分野では、アウトドアヴィレッジ本山やさめうらカヌーテラス等の拠点施設を中心に、さらなる交流人口の拡大に取り組んでおり、また、4町村及び地域内の観光関係者がさらなる連携と、地域経済の活性化を図るため令和2年12月に設立された、(一社)土佐れいほく観光協議会において、魅力ある旅行商品の開発や誘客に向けたキャンペーンなどの取り組みが行われた。

商工業分野では、土佐酒造(株)では、地元産の酒米にこだわった日本酒の販路拡大に向けて、日本酒を通年生産できる施設が完成し、また、(有)さめうらフーズについても新工場が3月末に完成したところである。

本年度のアクションプラン数は1件減の24項目となっており、昨年度に引き続き実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、町村や関係団体、民間事業者等と連携し各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいく。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画	
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析			
農業	4 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町) 【実施主体】 ◎・大豊町銀不老生産組合 ・(株)城西館 ・大豊町	出荷量 0.59 t (R元)	同左	0.13 t	0.75 t	1.2 t	1 銀不老の生産強化に向けた活動の充実 ・広報等による農家への生産呼びかけ (1回) ・種子の配布 2 実施主体の体制確立 ・総会、幹事会の開催 3 品質の確保及び統一化 ・栽培技術意見交換会の実施 ・栽培技術マニュアル作成の検討 4 銀不老の普及活動 ・体験交流イベントの開催 ・(株)城西館と連携した収穫イベントの実施	1 銀不老の生産強化に向けた活動の充実 ・広報等による農家への生産呼びかけ (1回) ・種子の配布 (1回) 2 実施主体の体制確立 ・総会の開催 (書面による開催1回) 3 品質の確保及び統一化 ・栽培技術相談会の実施 (1回) 4 銀不老の普及活動 ・県内事業者とのコラボ商品造成(1商品) ・体験交流イベントの開催 (1回) ・(株)城西館と連携した収穫イベントの実施 (2回) ・(株)JAL高知支店と連携した収穫イベントの実施 (2回)	0.25 t	・R3目標達成率：33% ・対前年比：192% ※前年度に比べ、主要出荷先からの買取量が回復しつつあるため。	D	(成果) ・新たな販路の拡大が一定進んだ ・大豊町と(株)JAL高知支店において産業振興に関する協定が締結され相互連携が強化された (課題) ・生産農家の確保 ・さらなる販路拡大 (今後の方向性) ・販路拡大につなげるため、各種イベント等を実施し、銀不老関係者の創出に取り組む	0.75 t	1 実施主体の体制確立及び生産体制の強化 ・広報等による農家への生産呼びかけ ・種子の配布 ・総会、幹事会開催 2 品質の確保及び統一化及び付加価値向上に資する取り組み ・栽培技術意見交換会の開催 ・栽培技術マニュアル作成の検討 3 銀不老の普及活動及び加工品等の開発 ・体験イベントの実施 ・他事業者と連携した収穫イベントの実施
農業	5 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町) 【実施主体】 ◎・エフビットファームこうち(株) ◎・施設野菜農家 ・本山町 ・(一財)本山町農業公社 ・JA高知県(土長地区) ※地域産業クラスター関連(本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)	施設野菜 出荷量 107 t (H30)	96 t	105 t	120 t	360 t	1 施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み ・環境制御技術・省力化機器の導入等 ・栽培管理技術及び防除技術指導 ・次世代型園芸用ハウスの整備、栽培準備 2 二次・三次産業との連携の具体化 ・クラスター構成員等による具体的連携に向けた協議実施	1 施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み ・環境制御技術研修会 (2回) ・栽培管理技術及び防除技術研修会 (20回) ・次世代園芸用ハウス整備・栽培準備 (3月～) ・従業員研修会 (4回) ・育苗及び支援体制検討会 (10回) 2 二次・三次産業との連携の具体化 ・本山町関係機関連絡会 (12回) ・クラスター意見交換会 (1回)	112.5t	・R3目標達成率：94% ・対前年比：107%	B	(成果) ・省力的防除の取り組み拡大 ・次世代園芸用ハウスでバブリカ栽培開始 (課題) ・夏秋栽培では環境制御が困難 ・次世代園芸用ハウスの病害虫防除技術等の支援が必要 (今後の方向性) ・実践可能な環境制御技術の検討 ・省力的な防除技術指導の継続 ・次世代園芸用ハウスでの生産技術等安定生産支援 (成果) ・次世代園芸用ハウスが整備されたことからクラスタープランの検討を定期的に行う体制ができた (課題) ・取組の具体化 (今後の方向性) ・行程表により計画的に計画実行を進める	136.5 t	1 施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み ・環境測定データを活用した実践可能な環境制御技術の推進 ・省力的な病害防除対策指導 ・次世代園芸ハウスの病害虫防除等の生産技術支援 ・次世代園芸ハウスの安定生産に向けた関係機関が連携した支援の検討 2 二次・三次産業との連携の具体化 ・行動計画の共有によるクラスタープラン進捗管理
	新規就農者数 (施設野菜：雇用就農含) 1人 (H28～R元)	同左	3人	4人	6人 (累計)	1 産地力強化のための担い手の確保・育成 ・園芸部営農意向調査・分析 (23戸) ・モデル営農類型検討会 (4回) ・産地提案書動画制作支援 (1本) ・新規栽培者説明会 (1回)	1 産地力強化のための担い手の確保・育成 ・園芸部営農意向調査・分析 (23戸) ・モデル営農類型検討会 (4回) ・産地提案書動画制作支援 (1本) ・新規栽培者説明会 (1回)	5人 (累計)	・R3目標達成率：125% ・対前年比 (累計値のため省略)	S	(成果) ・営農意向の把握 (23戸) ・モデル営農類型策定 (10類型) (課題) ・担い手不足の実態への対応 ・新規就農者の所得確保 (今後の方向性) ・就農希望者受入体制整備の継続 ・新規就農者への生産技術支援の強化	5人	1 産地力強化のための担い手の確保・育成 ・空きハウス情報の収集・共有 ・後継者候補調査 ・新規就農者対応農業基礎講座	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	R元実績	R2実績	R3到達目標	4年後(R5)目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4到達目標	R4年度計画
									R3到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
農業	7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興 (土佐町、本山町、大豊町) 【実施主体】 ◎・(株)れいほく未来 ・肉用牛生産組合 ・JA高知県(土長地区) ・本山町 ・土佐町 ・大豊町 ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	土佐あかうしの販売額 3.2億円 (H30)	2.9億円	3.5億円	3.3億円	3.5億円	1 農家の経営規模の拡大 ・繁殖雌牛の増頭 ・肥育牛の出荷頭数の増頭 2 飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立 ・定期巡回指導(月1回程度) ・新規就農者等に対して特別巡回指導(月2回) 3 県内産粗飼料の積極的な利用 ・自給飼料作付け増大及び稲WCSの利用拡大	1 農家の経営規模の拡大 ・肉用牛安定化基金を利用し繁殖素牛及び肥育素牛を導入 2 飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立 ・定期巡回指導(月1回程度) ・新規就農者等に対して特別巡回指導(月2回) 3 県内産粗飼料の積極的な利用 ・比較的規模が大きい農家でのWCSの利用拡大(2農家)	3.3億円 ・R3目標達成率:100% ・対前年比:94%	A	(成果) ・新規就農農家の増頭(10頭導入) ・稲WCS利用拡大(3戸、469口増) (課題) ・堆肥の利用促進 ・(株)れいほく未来の肥育成績及び繁殖成績の不振 (今後の方向性) ・定期巡回以外に随時、繁殖検診等を実施	3.4億円	1 農家の経営規模の拡大 ・繁殖雌牛の増頭 ・肥育牛の出荷頭数の増頭 2 飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立 ・定期巡回指導による指導等 3 県内産粗飼料の積極的な利用 ・自給飼料作付け増大及び稲WCSの利用拡大
農業	8 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 (大川村) 【実施主体】 ◎・(株)むらびと本舗 ・(一社)大川村ふるさとむら公社 ・大川村 ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	黒牛の販売額 7,100万円 (H30) はちきん地鶏の出荷羽数 7.4万羽 (H30)	5,485万円	6,753万円	5,500万円	7,500万円	1 【大川黒牛】生産体制の強化 ・【通年】繁殖牛・肥育牛の増頭 ・【通年】各種事業(増殖基金等)による経営支援 ・【通年】巡回指導等による技術支援 1 【はちきん地鶏】生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大 ・【通年】飼養管理・食鳥処理技術の向上、はちきん地鶏の付加価値販売、加工品の開発、販路開拓 ・【通年】関係機関と連携した協議(大川村PT等)、経営改善等支援 ・【通年】巡回指導等による技術支援	1 【大川黒牛】生産体制の強化 ・肥育素牛導入(嶺北家畜市場14頭、高原家畜市場12頭、その他4頭) ・子牛生産頭数(自家産):56頭 ・肥育牛出荷頭数:55頭 ・定期巡回指導(12回) ・増殖基金(R3:535万円) 1 【はちきん地鶏】生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大 ・衛生管理指導(2回) ・大川村はちきん地鶏事業再建チーム会議(1回) ・(株)むらびと本舗・(一社)大川村ふるさと村公社の経営に関する打ち合わせ(1回) ・「土佐はちきん地鶏」経営改善シミュレーション会議(3回)	6,676万円 ・R3目標達成率:121% ・対前年比:99%	S	(成果) ・販売額:66,761,535円 (課題) ・繁殖雌牛の増頭 ・新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込み (今後の方向性) ・一貫生産体制の充実に向けた体制や牛舎増築等の検討 ・オンラインを活用した販売促進イベントなど新たな取り組みの検討を行う	5,600万円	1 【大川黒牛】生産体制の強化 ・【通年】繁殖牛・肥育牛の増頭 ・【通年】各種事業(増殖基金等)による経営支援 ・【通年】巡回指導等による技術支援
農業								5.7万羽 ・R3目標達成率:88% ・対前年比:92%	B	(成果) ・出荷羽数:57,410羽 (課題) ・はちきん地鶏事業推進体制の強化 ・新型コロナウイルスの影響で不透明な需要や変化する顧客ニーズへの対応 (今後の方向性) ・事業財務分析の結果を踏まえ、事業の推進体制の強化を行っていく ・鶏肉の品質向上に努め、更なる販路拡大に取り組んでいく	6.5万羽	1 【はちきん地鶏】生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大 ・【通年】飼養管理・食鳥処理技術の向上、はちきん地鶏の付加価値販売、加工品の開発、販路開拓 ・【通年】関係機関と連携した協議(大川村PT等)、経営改善等支援 ・【通年】巡回指導等による技術支援	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出发点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析		
林業	9 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み（嶺北地域全域） 【実施主体】 ◎・自伐林家 ◎・森林組合 ◎・素材生産事業者 ・森林所有者 ・高知おおとよ製材(株) ・嶺北広域原木安定供給協議会 ・大豊町・本山町 ・土佐町・大川村 ※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）	素材生産量 105,557 m ³ (H30)	106,668m ³	114,304m ³	130,000m ³	144,000m ³	1 安定的な木材生産・供給システムの構築 ・林業事業者の体質強化と担い手の育成確保 ・森の工場設定の検討 ・各事業者の木材生産計画進捗管理、指導及び情報収集 2 再造林の促進 ・伐採跡地への植林の推進 3 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進 ・未利用材(林地残材)利活用に係る支援実施 4 製材品等の生産 ・関係機関等と原木安定供給体制についての会議の開催	1 安定的な木材生産・供給システムの構築 ・木材増産プロジェクトチーム会 2 回 ・森林組合支援ワーキング 4 回 ・素材生産事業者との増産に向けた聞き取り、協議（森林組合、事業者 計12事業者） 2 再造林の促進 ・嶺北地区・再造林の促進（2 回） 3 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備 ・未利用材利活用に係る支援（4 町村） 4 製材品等の生産 ・高知おおとよ製材(株)運営委員会（2 回）	120,361m ³ ・R3目標達成率：93% ・対前年比：105%	B	(成果) ・木材需要が高まり、木材単価も高い水準にあるため、各事業者とも木材増産に向けて計画的な生産（皆伐、搬出間伐）が進んでいる (課題) ・素材生産量のさらなる確保 ・皆伐事業の増加に対する森林資源の維持 ・担い手確保と林業技術の継承 (今後の方向性) ・木材生産計画の進捗管理、情報収集の継続	139,000m ³	1 安定的な木材生産・供給システムの構築 ・林業事業者の体質強化と担い手の育成確保 ・森の工場設定の検討 ・各事業者の木材生産計画進捗管理、指導及び情報収集 2 再造林の促進 ・伐採跡地への植林の推進 3 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進 ・未利用材(林地残材)利活用に係る支援実施 4 製材品等の生産 ・関係機関等と原木安定供給体制についての会議の開催
商工業	11 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興（本山町） 【実施主体】 ◎・(有)さめうらフーズ ・集落活動センター汗見川 ・生産者	シソ・ユズ商品の販売額 0.65億円 (H30)	0.5億円	0.6億円	0.7億円	1 億円	1 嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産 ・新工場の整備 2 新商品の開発 ・地域資源を活用した新商品の開発 3 県外での販路拡大 ・商談会等への参加 4 原料生産の強化 ・シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携	1 嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産 ・中小企業庁の事業再構築補助金が採択され、新工場を着工（12月～） 2 新商品の開発 ・地域資源のシソ、ユズの新商品の試作を実施 3 県外での販路拡大 ・シソ商品の販促キャンペーン「本山おいしそうれしそたのしそキャンペーン」を実施。 4 原料生産の強化 ・シソ栽培を行う集落活動センター汗見川との定期的な意見交換を実施	0.61億 ・R3目標達成率：87% ・対前年比：102%	B	(成果) ・新工場の整備により、稼働後は原価低減が期待できる (課題) ・シソ・ユズの安定した原料の確保 (今後の方向性) ・新工場の整備に合わせた新商品開発、発売 ・より認知度を増した「しそキャンペーン」の実施	0.8億円	1 嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産 ・新工場の安定稼働 ・新工場の県版HACCPの取得 2 新商品の開発 ・地域資源を活用した新商品の開発 3 県外での販路拡大 ・商談会等への参加 4 原料生産の強化 ・シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携
商工業	14 碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開（大豊町） 【実施主体】 ◎・大豊町碁石茶協同組合、大豊町	碁石茶関連商品の総販売額 2,440万円 (H30)	2,520万円	2,536万円	3,330万円	6,000万円	1 加工品の製造・販売 ・碁石茶製造 ・碁石茶審査会の実施 2 機能性表示申請 ・機能性表示申請の可否を検討 3 衛生管理の強化 ・県版HACCP第1ステージ申請 4 生産者募集活動及び製造技術の継承 ・碁石茶新需要創造協議会の体制再整備	1 加工品の製造・販売 ・碁石茶製造（6月～8月） ・リモートによる営業活動（随時） 2 機能性表示申請 ・機能性表示申請の可否を検討（他事業者と連携申請検討） 3 衛生管理の強化 ・県版HACCPへの申請見送り 4 生産者募集活動及び製造技術の継承 ・文化庁調査（技術継承）への協力	2,686万円 ・R3目標達成率：81% ・対前年比：106%	C	(成果) ・大口取引を獲得できたため、販路拡大が一定進んでいる (課題) ・生産者の確保 (今後の方向性) ・生産者の確保につなげるためにも、さらなる販路の拡大を図り、売上の増加に取り組む	3,330万円	1 加工品の製造・販売 ・碁石茶製造 ・碁石茶審査会の実施 2 機能性表示申請 ・機能性表示申請に向けた検討 3 衛生管理のさらなる徹底 ・HACCPに対応した衛生管理の実施 4 生産者募集活動及び製法技術の継承 ・碁石茶新需要創造協議会の体制再整備

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析		
商 工 業	16 嶺北地域で140年 続く酒蔵の地産外商を 核とした地域活性化 (土佐町) 【実施主体】 ◎・土佐酒造(株)	売上高 1億5,067 万円 (H30)	1億 9,315万 円	2億 1,470万 円	2億 2,000万 円	2億 2,000万 円	1 生産性の向上及び販路拡大 ・リモート商談及び四国内への営業強化 ・日本酒造連合会ガイドラインに基づく HACCP取得準備 ・新型コロナウイルス感染症対策産業 振興推進特別支援事業費補助金の 活用による需給調整できる体制の構築	1 生産性の向上及び販路拡大 ・リモート商談及び四国内への営業強化【通年】 ・日本酒造連合会ガイドラインに基づくHACCP取得準備 →県版HACCPの第2ステージの取得【3月】 ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事 業費補助金の活用による需給調整できる体制の構築 →建屋建築により、導入した吟醸甑及び付帯する機器を 衛生状態や温度管理された状態で作業出来るようになった。	3億351万円 ・R3目標達成率：138% ・対前年比：141%	S	(成果) ・新型コロナウイルス感染症対策産業 振興推進特別支援事業費補助金の 活用により新工場の完成 ・県版HACCPの第2ステージの取得 (課題) 輸送量の増加等に伴う物流体制の確 保 (今後の方向性) 物流及び生産性の向上のための新工 場の建設	3億円	1 生産性の向上及び販路拡大 ・リモート商談及び四国内への営業強化 ・食品加工施設等整備促進事業費補 助金を活用した新工場の建設
	地元産原 料米調達 量 88 t (H30)	101 t	100 t	115 t	125 t	1 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用 した農家への酒米作りに向けた声かけ	1 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した農家への酒米作り に向けた声かけ→契約農家数19戸	140t ・R3目標達成率：122% ・対前年比：140%	S	(成果) ・地元産の酒米の調達量の増加 (課題) ・地元産の酒米の生産量の拡大 (今後の方向性) ・集落活動センター松ヶ丘と連携し、地 元の農家へ酒米作りに向けた声かけ	160 t	1 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用 した農家への酒米作りに向けた声かけ ・集落活動センター松ヶ丘と連携した農 家への声かけ	
	従業員数 15人 (H30)	16人	17人	21人	25人	1 雇用の創出及び地域経済活性化 ・生産量の拡大 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入 れ	1 雇用の創出及び地域経済活性化 ・早明浦ダム貯蔵酒お披露目会【5月】 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入れ【通年】	23人 ・R3目標達成率：110% ・対前年比：135%	S	(成果) ・従業員の確保 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入 れ (課題) ・従業員の確保 (今後の方向性) ・さらなる従業員の確保に向けて引き続 き取り組む	24人	1 雇用の創出及び地域経済活性化 ・生産量の拡大 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入 れ	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】							
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画					
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析							
観光	18 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 (嶺北地域全域) 【実施主体】 ◎・(一社)土佐れいほく観光協議会 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	主要観光施設の入込数 284,813人 (H27～29平均)	333,962人	279,191人	379,562人	459,267人	1. エリアマーケティング機能の強化 ・アンケートを活用した市場調査 ・観光施設の入込数等の実態調査 ・アプリを活用した顧客の囲い込み化 2. れいほくならではの魅力ある商品開発の推進 ・体験プログラムの開発・磨き上げ ・周遊・宿泊促進商品の開発・磨き上げ ・土産・食の開発・磨き上げ ・広域イベントの開催 3. セールスの強化・推進 ・旅行会社へのセールスの実施 ・企業や大学等へのセールス、タイアップ	1. エリアマーケティング機能の強化 ・アンケートを活用した市場調査や観光施設の入込数等の実態調査の結果を分析、関係者へフィードバックし、ターゲットの選定や受入体制整備についての提言を行った ・アプリを活用し、顧客の囲い込みを図った 2. れいほくならではの魅力ある商品開発の推進 ・協議会アドバイザーや県事業「土佐の観光創生塾」を活用し、体験プログラムや周遊・宿泊促進商品の開発・磨き上げを行った(20本) ・広域イベントは、コロナウイルスの影響で実施されなかった 3. セールスの強化・推進 ・コロナウイルス感染状況を見つ、旅行会社等へのセールスを実施(109社)。メディア系旅行会社2社において募集型企画旅行の誘致を行った(催行32本)	351,245人	B	(成果) 繁忙期である夏季にコロナウイルス拡大と天候不良が続いたことで、目標数値を下回る結果となった (課題) 天候不良時の代替コンテンツの情報発信が不十分である (今後の方向性) 体験博実施による体験事業者と全天候型コンテンツの掘り起こしを行い、情報発信していく	417,516人	1. エリアマーケティング機能の強化 ・アンケートを活用した市場調査 ・観光施設の入込数等の実態調査 ・アプリを活用した顧客の囲い込み化 2. れいほくならではの魅力ある商品開発の推進 ・体験プログラムの開発・磨き上げ ・周遊・宿泊促進商品の開発・磨き上げ 3. セールスの強化・推進 ・旅行会社へのセールスの実施 ・企業や大学等へのセールス、タイアップ					
							4. れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進 ・プラットフォームの整備 ・会員へのPR ・デジタル・アナログメディアを活用したPR ・OTAを活用したPR ・プレスリリースを活用したPR ・県や高知市と連携したPR 5. 受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化 ・観光ガイド連絡協議会の出席 ・安全管理研修の参加 ・SDGs実践研修の参加、事業者の参加を推進 ・社員総会の開催(2回) ・4町村観光主幹課課長会の出席(6回) ・委員会の実施(4回)	4. れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進 ・SNS等のデジタルメディアやテレビ・新聞広告等のアナログメディアを活用し、PRを実施 ・オンラインツアーの実施(4本) ・観光需要喚起策として、クーポン事業を実施(11～1月) 5. 受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化 ・観光ガイド連絡協議会の出席 ・安全管理研修の参加 ・SDGs実践研修の参加、事業者の参加を推進 ・社員総会の開催(2回) ・4町村観光主幹課課長会の出席(6回) ・委員会の実施(4回)						25,957人	S	(成果) クーポン事業の実施により、閑散期の冬季対策が図られたことから、宿泊者数の目標数値、対前年比ともに好調であった (課題) クーポン事業の実施により、新規来訪者が増加した。今後はリピーターにつなげるための取組が必要 (今後の方向性) コンテンツの磨き上げ・強化と適切な情報発信を行うことでリピーター率向上を狙う	22,046人	4. れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進 ・プラットフォームの整備 ・会員へのPR ・デジタル・アナログメディアを活用したPR ・OTAを活用したPR ・県や高知市、メディア等と連携したPR ・土産、飲食等の情報収集・発信・サポート ・広域イベントの支援 5. 受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化 ・人材育成及び担い手の創出 ・担い手支援
							・住民の参画の推進及び意識醸成 ・受入体制の整備(ソフト・ハード整備) ・組織内体制強化 ・地域事業者・団体等との連携・協力体制強化 ・ワンストップ窓口体制の構築	・「土佐あかうし街道」実行委員会への出席 ・訪日外国人旅行者に対する観光資源等調査事業の実施(四国運輸局事業への参画) ・旅行業務取扱管理者資格試験の受験 ・県観光地域づくり塾人材育成事業取組共有会の出席 ・県観光地域づくり塾人材育成事業取組発表会の出席 ・高知県教育旅行連絡会の出席(6回) ・教育旅行の受入手配(受入件数 92校7265人)										

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※進捗状況の基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R4【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	R元 実績	R2 実績	R3 到達 目標	4年後 (R5) 目標値	R3年度計画	R3取組状況	現時点の進捗状況			R4 到達 目標	R4年度計画
									R3到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析		
観光	21 さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興（土佐町） 【実施主体】 ◎・土佐町 ◎・民間事業者等 ・大川村 ・本山町 ・大豊町	さめうら荘利用者数 15,961人 (H30)	20,404 人	16,587 人	26,000 人	28,000 人	1 さめうら荘への誘客 ・接遇のスキルアップ、顧客満足度の向上に向けた取組 ・SNSを活用した情報発信 ・宿泊客向け食事メニューの充実 ・カヌー・SUP体験をセットにした宿泊プラン造成・販売 ・OTAサイトを活用した誘客	1 さめうら荘への誘客 ・接遇のスキルアップ、顧客満足度の向上に向けた取組 →アドバイザーの導入 ・SNSを活用した情報発信【通年】 ・宿泊客向け食事メニューの充実【通年】 ・カヌー・SUP体験をセットにした宿泊プラン造成・販売【通年】 ・OTAサイトを活用した誘客【通年】	17,135人 ・R3目標達成率：66% ・対前年比：103%	D	(成果) ・宿泊向け食事メニューの充実 (課題) ・コロナ禍で状況が不透明な中での売り上げの維持・向上 (今後の方向性) ・顧客満足度の向上に向けて引き続き取り組む	27,000 人	1 さめうら荘への誘客 ・接遇のスキルアップ、顧客満足度の向上に向けた取組 ・SNSを活用した情報発信 ・宿泊客向け食事メニューの充実 ・カヌー・SUP体験をセットにした宿泊プラン販売 ・OTAサイトを活用した誘客
	※地域産業クラスター関連（嶺北畜産クラスタープロジェクト）	カヌー拠点施設利用者数 0人 (H30)	同左	6,329人	1,300人	1,520人	1 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・カヌーアカデミーの実施 2 カヌー拠点施設への誘客 ・HPやSNS等を活用した情報発信 ・早明浦森林公園のリニューアルに向けた整備 ・土佐町体験博「とさんぼ」への掲載・実施	1 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・カヌーアカデミーの実施【通年】 2 カヌー拠点施設への誘客 ・HPやSNS等を活用した情報発信【通年】 ・早明浦森林公園リニューアルに向けた整備 ・アドバイザーの導入→新たなキャンプ場のコンセプト等【12月】 トークショーの開催【2月】 ・土佐町体験博「とさんぼ」への掲載・実施【8月、3月】	12,448人 ・R3目標達成率：958% ・対前年比：197%	S	(成果) ・「さめうらテントパーク」の整備 (課題) ・さめうらテントパークの第2期工事の実施 ・「さめうらテントパーク」の運営・誘客 (今後の方向性) ・さめうら湖畔の拠点施設を中心としたスポーツツーリズムの振興	1,520人	1 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・HPやSNS等を活用した情報発信 2 カヌー拠点施設への誘客 ・さめうらテントパークの第2期工事の実施 ・土佐町体験博「とさんぼ」への掲載・実施

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、19のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況
額北	農業	No.5 額北畜産クラスタープロジェクト	額北地域の特産物である土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏のさらなる生産拡大とともに6次産業化による付加価値を高め、増産しながら販路拡大を進めるとともに、雇用の場の創出と観光資源の磨き上げを図る。	<p>（土佐あかうし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎等整備による飼養頭数の増加や、増産のための技術的支援を実施した。 ・篤農家による肥育牛の飼養管理指導及び産振アドバイザーの導入による(株)れいほく未来のマネジメント強化に向けた支援を実施している。 <p>（大川黒牛）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥育牛舎の整備及び「大川村プロジェクト」の推進による販売増につなげた。 <p>（土佐はちきん地鶏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工のための食鳥処理施設の整備のほか、生産体制の効率化や販売戦略の見直しを行った。また、外商社と連携したPRなど販売促進を行った。 ・土佐はちきん地鶏事業再建チームによる、生産体制の効率化や販売促進に必要な支援を実施している。
		関連する地域AP	<p>No.7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の振興</p> <p>No.8 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産の活性化 ほか</p>	<p>これまでの取り組み（H28～R3）</p> <p>R4年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、産振アドバイザーによるれいほく未来のマネジメント強化に向けた支援。 ・篤農家及び家畜保健所等による飼養牛の飼養管理指導。 ・土佐はちきん地鶏の新たな販路の確保に向けた支援。
		No.6 額北林業クラスタープロジェクト	<p>県内外の若者が山に関する仕事に就くことができる環境を整備するため、額北地域の豊かな森林資源を活用し、安定的な木材生産・供給システムを構築する。</p>	<p>これまでの取り組み（H28～R3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な木材生産・供給システムの構築に向けて、森の工場（小規模な森林をまとめて一体的に整備したもの）の認定を推進。そのことにより認定数が増加（H28：37団地→R3：47団地）した。 ・大豊町で整備していたストックヤードがR2.4月から稼働し、地域外への製材製品の安定供給が可能になった。 ・木質バイオマス発電施設については、急速、県のR2.9月補正で整備することになったことにより、整備が遅れていたが、R4.4月に完成した。 ・国産材需要の高まりを受けて木材流通が活発化している。
額北	林業	関連する地域AP	<p>No.9 額北地域における林業クラスター化の取り組み</p> <p>No.10 れいほくスケルトン（額北材の郵別販売）をはじめとする額北材の促進 ほか</p>	<p>R4年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・額北材の需要喚起に向けたPR、営業活動の強化。
		No.7 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト	次世代型園芸ハウスの整備等による農産物の生産拡大を核に、農業クラスターの形成を図る。	<p>これまでの取り組み（H28～R3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代園芸用ハウス（パプリカの生産）の整備と併せて、関係機関と連携し、育苗生産体制や栽培管理など営農開始に向けた支援を実施した。また、雇用された従業員（職員）に対する農業研修を実施した。 ・本山町農業公社と額北高校の学生がパプリカを使った加工品を共同開発するとともに、アウトドアレジャ本山（モンベル）と、農業体験ツアー実施などが検討された。
	農業	関連する地域AP	<p>No.3 直販所「さくら市」を核とした地域活性化</p> <p>No.19 額北広域観光アウトドアの里づくり ほか</p>	<p>R4年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜農家の収量確保に向けた栽培・防除技術での取り組みの継続。 ・次世代園芸用ハウスでの安定生産に向けた技術支援。 ・担い手確保に向けた体制整備と新規就農者への支援強化。 ・次世代園芸用ハウスと観光が連携したクラスタープランの具体化・実行（本山さくら市の売上高向上に向けた組織体制の強化、観光施設や飲食店と連携した食材活用と観光ルートマップの作成など）

- 2 令和3年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）
該当なし